

女川町震災復興事業成果(その3)ーまちびらきを迎えてー

鹿島建設(株) 正会員 ○野村 浩, 星野 亨, 澁谷智弘, 四津 徹, 佐藤航太郎
(独)都市再生機構 朝原龍彦

1. はじめに

H23年3月11日の東日本大震災で女川町の中心市街地および離半島地区において壊滅的な被害を受けた。特に女川駅を中心にした市街地においては早期復旧のため、早急な女川駅開業が必要であった。そこで本事業のマネジメントとして、マスタースケジュールを作成し女川町の全体最適を目指している。それにより、事業者間の調整、マイルストーンの設定管理、労務資機材の早期調達管理、究極のファストトラックを実現した。

用地交渉・補償・調査・測量・設計・施工を並行して実施し、設計を地区・工種に細分化し完了した部分から順次着工すること、施工時の創意工夫により、まちびらきまでの工期を 1/2 に縮減した。

(図－１)

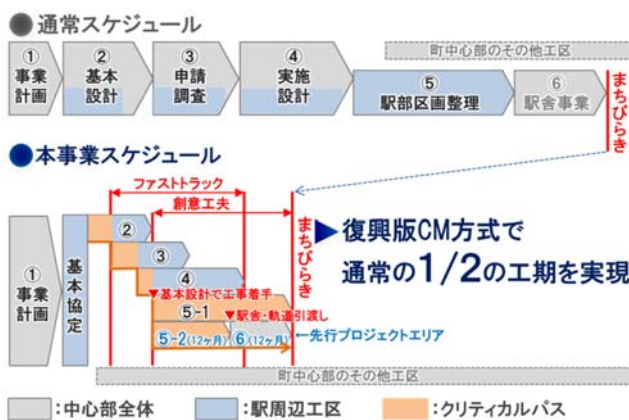


図-1 本事業スケジュール

本報文では、H27 年 3 月 21 日のまちびらき(女川駅開業)を迎えるための駅舎・軌道工事への早期引渡し、女川駅開業までの工事展開上の施工創意工夫について述べる。

2. 駅舎・軌道工事への早期引き渡し

市街地の高台移転は、周辺 3 箇所 の 地 山 を 切 土 により高台に住居を構築する計画と津波により被害を受けた低地部を盛土造成し、商業エリアを構築する計画から構成されており、設計および工事期間が、H23 年 4 月から約 2 年間であったため、津波シミュレーションから宅盤の高さを算定し、基本設計の状況で工事着手を踏み切った。

(圖-2)

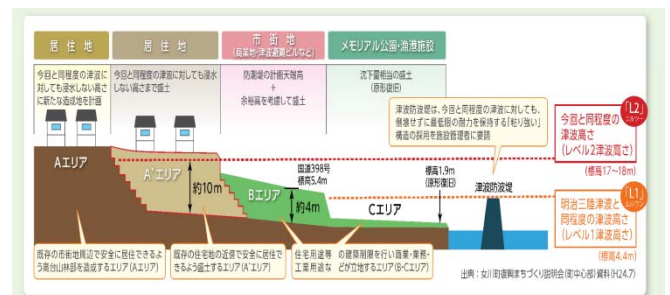


図-2 津波シミュレーションによる造成計画

既設構造物撤去、約 135 万 m³ の切盛土工、雨水幹線、インフラ工事をこの期間で完了させるだけでなく、工事期間が 1 年程度かかる女川駅舎および J R 軌道区域の早期引渡しが必要であった。

(圖-3)



図-3 女川駅周辺の造成計画概要図

キーワード 震災復興, 高台移転, ファストトラック方式, 津波シミュレーション, 大型重機, まちびらき
連絡先 〒986-2261 宮城県牡鹿郡女川町女川浜字新田 9-1 鹿島・オオバ女川町震災復興事業共同企業体

TEL 0225-50-3161

そこで、造成エリアの中央部分を先行引渡ししていくための土配計画を作成した。計画に基づき、国道398号切回し道路造成による施工範囲の締切りと既設インフラの切回しを実施し、大型重機での急速施工、広範囲での切盛土工着手に至った。(図-4)



図-4 造成エリアの締切と大型重機

3. 周辺工事との調整

駅舎・軌道工事などの周辺施設工事への引渡し後も、まちびらきに向けて幹線道路や商業エリアの造成、インフラ施工は続いた。造成エリア中央部に位置する周辺施設工事との動線・ヤード調整を効率的に進めなければ、駅舎・軌道の完成と本工事のインフラ工事は共倒れしてしまうため、日々の調整はそれまで以上に細心の注意を払った。

(図-5)

特に電力・NTTについては景観上の理由により、駅から海を眺望するエリアの電線は埋設する計画であったため、構造物との取り合いや工程調整が必要となった。また、駅舎への電力供給として電線ルートを確保するために、一部を先行盛土し電柱を建柱するなどの調整も行った。水道・温泉管についても造成エリア内に先行して埋設し、駅舎へ先行供給した。



図-5 他工事との調整の様子



写真-1 まちびらきの様子

4. 最後に

H27年3月21日に無事まちびらき(女川駅開業)を迎えることができた。(写真-1)

しかし、中心市街地の造成は折返しを迎えたにすぎない。女川駅開業により施工エリアは分断され、まちびらき前よりも動線やヤードの確保が難しくなった中で施工は続いている。

現在では海への遊歩道であるプロムナードの引渡しも完了し、駅前商店街もH27年12月にオープンした。宅地もH27年9月から毎月1エリアごと、確実に引渡しを進めている。(写真-2)



写真-2 H28.1月の女川駅周辺の様子

参考文献

- 1) 尾中隆文 他: 女川町震災復興事業成果(その1)ー復興版CM方式の構築と成果ー, 土木学会第71回年次学術講演会, 2016.9